

令和2年度第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和2年9月17日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 パーティーギャラリーイヤタカ 2階 ポストンホールB
- 3 出席者 高田委員長、黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 管内の原木は、第一四半期よりは荷動きに若干の変化がみられるものの、依然として合板、集成材などの大型木材加工施設では、原木入荷を制限しており、製紙工場では紙需要の大幅な減少により、減産体制を継続している。一方で、中小製材工場によっては、原木供給の減少により、良材の確保が難しくなっている状況も見受けられるが、全体としては、当面製品の減産と原木の入荷制限の状況が続くものと予想される。以上の状況を踏まえ、国有林には、各分野の原木需要と民有林を含めた全体の原木供給量の需給バランスを見極めながら、必要に応じて国有林材の機動的な供給調整の対策を講じることを求める。
- 5 主な意見
 - (1) 製材品は荷動きの鈍い状況が続いており、製品在庫は増加傾向にあるため、引き続き生産調整が行われている。そのため、製材用素材は依然として全般に引き合いが弱く、価格も安値保合で推移している。一方で、生産量の減少等を受けて一部の地域では長級、径級によっては良材の確保が難しくなりつつある。
 - (2) 合板工場では減産や原木の入荷制限が続いているため、合板用材はダブつき気味で価格も弱含んでおり、一部はバイオマス向けに流れる動きもみられる。一方で製品の在庫調整が進んでおり、製品価格の底固めが期待される。
 - (3) 低質材については、製紙工場では紙需要の減少を受け、減産や原木の受入制限を続けている。バイオマス用は在庫が増加傾向にあり、置き場の確保が課題となりつつあるが、今のところ制限無く納入され続けている。
 - (4) 能代港等から中国への原木輸出や米国向けのフェンス材等の輸出は順調に進んでいる。またその他にも国内需要の低迷を受けて、輸出を検討する動きもみられる。
 - (5) こうした中、国有林においては、市況等に応じた立木や丸太の供給調整等の必要な措置が講じられている。また、伐採を伴わない森林整備事業が発注されたことは雇用確保の観点から評価される。
 - (6) 需要が回復した際に国産材を安定して供給できるように配慮することも必要である。